

『2024年度東北学院大学外部評価報告書』を受けて

東北学院大学は、教育・研究水準の向上及び組織の活性化等に資する提言を学外の第三者から得ることを目的として、2010年度から外部評価を実施してきました。2024年度は第5期外部評価（2022～2024年度）の最終年にあたる3年目となります。第5期の外部評価委員会は「教学マネジメント体制の個別具体的な運用状況」を評価テーマとしており、2024年度外部評価においては、大学における正課外での学生支援の取り組み（一部、正課内を含む）に焦点を当て、「ピアサポート」及び「国際化・国際交流」を具体的なテーマとしています。始めに書面調査を行った後で、関係部局長が一堂に会して追加の質疑応答が行われました。また、その回答は後日書面にて外部評価委員へ提出しました。

「ピアサポート」については、学内の14に及ぶセンターや部署がそれぞれの置かれた状況や活動内容に応じた制度を構築して取り組みを進めており、大学として全学を挙げてピアサポートに力を入れていることが高く評価されました。一方で、ここ数年内に取り組みを開始したばかりで試行錯誤が続いている活動や、業務内容の特性上「ピアサポート」に位置づけにくい事例、部署間での温度差・企画力のバラつき等も見られたことから、部署ごとに効果検証すること、サポートを受ける学生に対する窓口の一本化や現状・課題の情報共有を進めることの必要性が指摘されました。今後については、学内での広報周知を通してピアサポートの意義を浸透させること、学生や教職員にピアサポートに参加することのメリットやデメリットをしっかりと説明していくこと、学生へのインセンティブとしてバッジ供与やポイント制を導入すること等、ピアサポートの推進に際して、学生の主体性を促すとともに、教職員に過剰な負担をかけずに制度としての持続可能性を担保することの重要性が挙げられています。

「国際化・国際交流」については、従来の国際交流部（国際交流委員会）を中心とした体制を転換して「グローバル教育センター」を新設する等、更なる機能強化が図られていることが評価されました。また、海外留学の受け入れ・送り出し数が学生総数に比して必ずしも多くはないものの、新型コロナ禍を経て交換留学生数等が通常レベルに回復してきていること、新たなプログラム協定校が増加していること、国際交流に関する学生ボランティア（2024年度より「グローバルサポーターズ」）が機能していることから、国際交流活動の更なる展開に期待する声が聞かれました。今後については、国際交流のハブとして、本学の留学生のほか、地域に増加している外国人も対象とした国際交流活動を地域と協力しながら強化していくことの必要性が指摘され、全学を挙げての取り組みの活性化が期待されています。そのために、正課内外での各種取り組みの充実による学生の語学力向上、学生が日常的に英語や外国語に触れる機会の提供が課題として挙げられました。また、受け入れ留学生を増やし、少子化による国内の労働力不足改善に貢献することを期して、日本語教育や就職支援の体制強化を求める声も聞かれました。

このほか、第5期外部評価を通じたご意見として、2022年度の評価テーマとして取り上げた教職員の人事評価の実施状況において、制度そのものが社会一般のそれに比べ遅れていることが指摘され、教職員それぞれの業務を、成果・プロセス両方の視点から適切に評価することが本人のモチベーション向上にもつながり、組織としての価値向上に資することから、

今後の取り組みへの期待が寄せられました。

外部評価委員会の皆様からは、外部の教育機関・民間企業等の視点からのご質問やご指摘、内部質保証実質化のための取り組みへの期待を含んだご意見、第6期外部評価委員会への引継事項を頂戴することができました。本報告書の作成にあたり、外部評価委員会の皆様には多大なるお力添えをいただきましたことに、あらためて厚く御礼申し上げます。このたび提出された『2024年度東北学院大学外部評価報告書』は、大学ホームページ等を通じて広く学内外に公表し、いただいた評価及び意見は本学の教育研究活動の改善のために有効活用させていただきます。

2025年4月

学長	大西 晴樹
副学長（点検・評価担当）	中沢 正利